

2. 町の積立金は十分なのか（松川村との比較を通して）

（1）池田町の積立金の現状

「ニュースレターVol.2」は、「当町は、現在、基金（貯金）を約 15 億円保有しており、その一部を取り崩し、上記計画実施のための財源にする予定です」と書き、財源が十分あるかのように描いています。

平成 22 年度から、財政調整基金の積み増しを抑え、公共施設等整備基金を積み始めており、財政調整基金と合わせて約 17 億円の積み立てをしています。しかし、2010 [H22] 年度、2011 [H23] 年度の目的基金は施設改修や保育園の建設などを含む一般的なものであり、社会資本整備事業を意識したものではありません [表 -3]。

現時点での町の説明では、これらの基金から 5 億円程度を取り崩して「社会資本総合整備計画」にあてるとしているのです。

池田町の場合は、特定目的といっても公民館の建て替えとか、図書館の整備とかというような個別的な積み立てではなく、あくまで大きくくりであり、それもようやく平成 22 年度あたりから目的意識的に積み立てを始めたものなのです。

（2）勝山町政のもとでの積み立ては必要に迫られてのもの

勝山町政発足時に、積み立てはほぼ 10 億円あったわけですから、今後 5 億円も取り崩せば勝山町政前の水準に戻ることを意味します。言い換えれば、これらの積み立ては数年から 10 年先を見通したものではなく、直近の必要に迫られての積み立てであり、相当に場当たり的なものだということです。「15 億円もあるから財政は健全だ」というのは、積み立ての推移を見ない暴論といえます。

これらの財政上のトリックは池田町だけを

見ていればわかりませんが、松川村の計画的な事業の進め方や積み立ての仕方を見るとはつきりします。

（3）松川村の計画的な基金積み立て

松川村では、[表 -3] でわかるとおり、積み立てのうち「特定目的基金」が群を抜いています。

財政調整基金などを含めた積み立ては、平成 24 年度末推計で池田町の約 2 倍。2008 [H20] 年度、2009 [H21] 年度には「すずの音ホール」建設のために基金を取り崩していますが、2010 [H22] 年度以降は再び目的基金を積み増しし、過去最高額の 27 億円近くになっているのです。

しかも、この計画的な積み立てによって「すずの音ホール」建設のための新しい借金は全く必要としませんでした。（資料「松川村はどのようにして『すずの音ホール』を建てたのか」参照）

（4）基金積み立ての原則

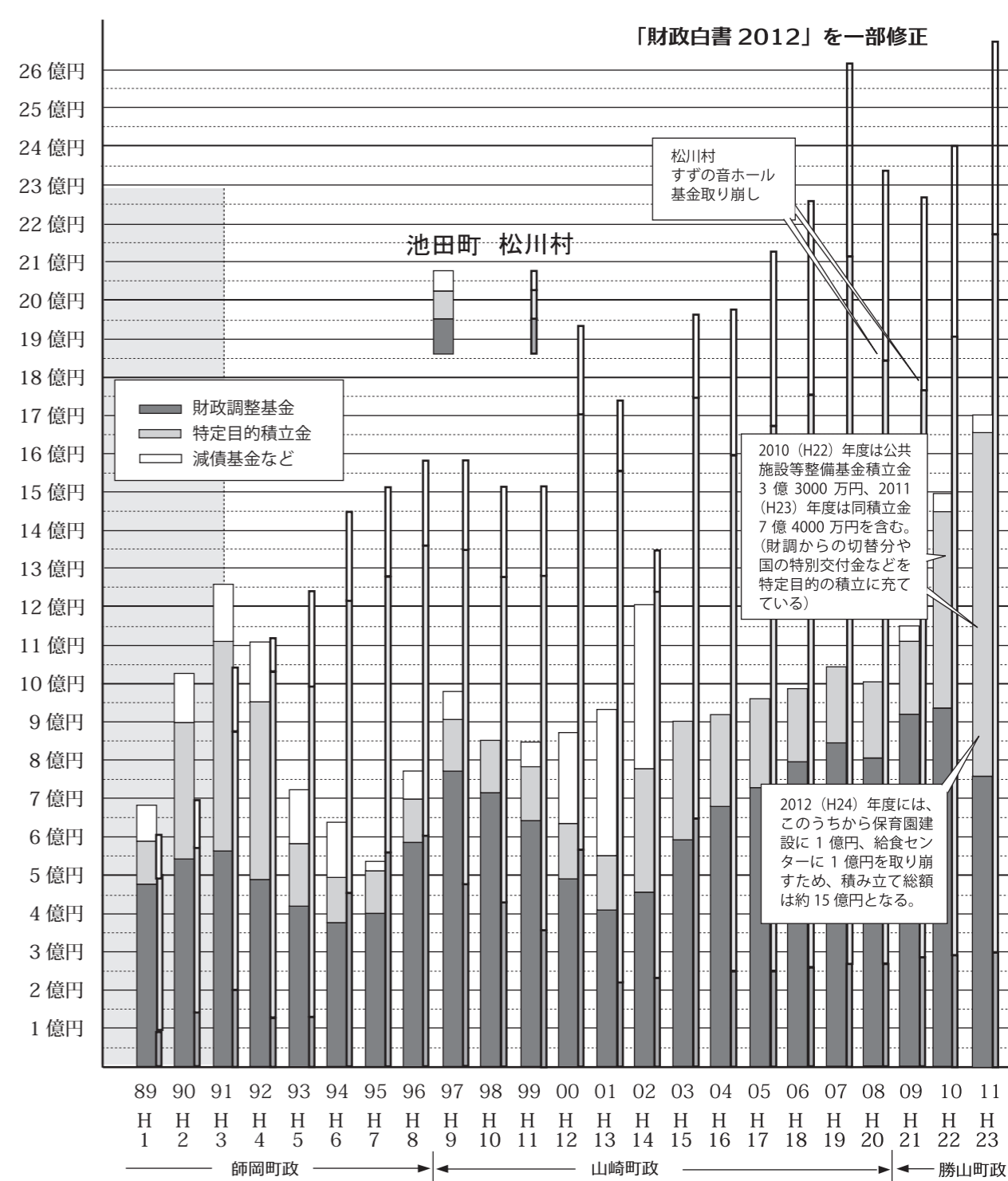
過去の積み立ての推移をみれば、事業計画を立てそれを実施する場合の教訓が明らかになります。

基金のうち、財政調整基金は財政に不測の事態が生じた場合のいわば緊急避難の積み立てです。それに対して、特定目的は、ある事業を行うための計画的な積み立てであり、当然取り崩すことが前提となります。

松川村の場合は、その使い分けが過去から一貫していましたが、池田町の場合は、財政調整基金を積み増すことが優先され、特定目的基金として積むことはほとんどなかったのです。

変化が生まれたのは、ようやく 2010 [H22] 年度になってからでした。しかも

【表 -3】 池田町と松川村の積立金現在高



公共施設をつくらなければならないという現在の必要に迫られての対策だったことはすでにみたとおりです。

「社会資本総合整備計画」のような大型の事業を進める場合に、積み立ての方法は次のようなものでなければなりません。

まず、財政調整基金は 5 億円程度とし、その残りは特定目的基金に振り替え、新しい借金を避けるために、数年の期間を見て、必要な積み立てを行うことです。

今回の計画にそうした意識が全く見られないことは大きな問題です。